



理事長
塩谷 彰浩

日本気管食道科学会の歴史と特色

日本気管食道科学会は、1949年11月20日に設立され、70年以上の歴史を持ち、1950年より日本医学会第41分科会として認められている伝統ある学会です。その特色および存在意義は、耳鼻咽喉科、消化器外科、呼吸器外科・内科、形成外科、放射線科、麻酔科など多くの専門科が参加している多科協調的な点にあります。臓器別あるいは縦割り診療になりやすい気管食道科領域の疾患を単科的視点だけでなく、違った側面や広い視野から捉え、学際的に統合して研究し、従来の診療科の枠を越えてより良い医療への還元を目指して研鑽を積んでいる組織であります。

日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会の関連する学会の中でも、会員が耳鼻咽喉科単独ではないことは大きな特徴であり、耳鼻咽喉科の枠の中に留まらず、より広い視野から学べる学会と言えます。会員数は約2,600名で、耳鼻咽喉科、消化器外科、呼吸器外科・内科、形成外科、放射線科、麻酔科、小児科などの多くの診療科の医師が会員として加入しています。

学術講演会と専門医大会

総会学術講演会は毎年11月ごろに行われ、2021年で第72回を数えています。毎回1,000名以上の参加者、約200題の演題発表があり、企画内容は日本気管食道科学会ならではの横断的で学際的なものが多くみられます。第70回総会の時には70周年記念式典を行いました。専門医大会は毎年2月ごろに行われます。総会に比べると規模は小さいですが、ここでも多科協調的、学際的企画が凝縮されています。

機関誌と学会奨励賞

1998年から会報に掲載された論文の中から優秀なもの(著者45歳以下)に日本気管食道科学会奨励賞を授与しています。

第1部門(気道系)、第2部門(食道系)、第3部門(その他の系)に分かれており、それぞれ副賞10万円が授与され、1998年～2021年度まで受賞者は合計74名を数えています。



第70回総会における学会奨励賞受賞者表彰

用語解説集とマニュアル

気管食道科学用語解説集(2003年9月発刊)、外科的気道確保マニュアル(2009年10月発刊)、気道食道異物摘出マニュアル(動画DVD付)(2015年11月発刊)を刊行しており、この領域のリーダーとして情報を発信しています。

専門医制度

専門医制度は、1998年に認定医制度が発足し2005年に専門医制度に移行しました。現在約1,200名の気管食道科専門医が活躍しています。

研究課題の公募

2017年度より評議員を対象に研究課題の公募を開始しました。頭頸部・気道・食道領域の複数学会の複合体としてのメリットを最大限に活かすためには、各領域に共通するテーマにおいて共同の臨床研究を計画実行することが必要です。そのために、本学会に関わる疾患の病態・診断・治療などに関して、早急に解決すべき問題点や課題についてのプロジェクト研究を推進していきます。現在15課題が承認され、成果は本学会学術講演会などで発表、さらに論文化されて海外の有名医学雑誌にもエビデンスとして発信されています。

国際気管食道科学会との関係

国際気管食道科学会とは役員の併任や世界気管食道科会議における企画の提案などを通じて密接な提携関係にあります。また過去にも世界気管食道科会議をわが国で複数回主催しており、本学会を国際的にアピールすると同時に会員の国際舞台での活躍の機会を確保しています。

理事長から一言

私自身耳鼻咽喉科医ですが、本学会を通じて耳鼻咽喉科にとどまらず、外科や内科の先生との交友が広がり、耳鼻咽喉科医だけの学会では得られない多くのものを得ました。ぜひ皆さんも日本気管食道科学会にご参加いただき、その楽しさを味わってください。